

惜 別 2024. 5. 29.



藤井 忠臣さん 2024年4月6日 ご逝去



姫路で開催の今年の皆酔会(京大工学部金属加工学科 S. 4 | 年卒同期会) の冒頭
昨年の京都皆酔会に続き顔の見えない藤井さんを心配した余さん・武居さんの藤井さん宅への電話で、
藤井忠臣さんが4月6日 逝去されたこと知り、みんな驚愕。
直ぐに次女の満里子様から、武居さんの電話への返信として状況を知らせる下記メール。
今年の皆良い会は藤井さんの訃報にみんなそれぞれ 藤井さんへの思いを募らせながらの皆酔会となりました。

- ◎ 武居さんの「藤井さんの訃報」を伝えるメール 2024.5.29. 姫路より速報
藤井忠臣君が今年4月6日に逝去されました。
故人のご冥福をお祈りし、ここに謹んでお知らせいたします。
以下、家族から頂いたメールです

父にご連絡をありがとうございます。

次女の満里子と申します。

父は昨年末、顕微鏡的多発血管炎という難病からの重い腎不全が見つかり、

透析や治療を頑張っておりましたが、体力が日に日に落ち、4月6日に永眠致しました。

少し前まで普通に生活できていたので、徐々に話もできなくなり、本人も辛かっただろうと思います。

皆様のような良き友人方とともに過ごしてこられて、父は幸せだったと思います。

本当にありがとうございました。 2024.5.29

藤井忠臣さんの訃報に接して言葉がありません

京大41年卒気家族や金学科同期会「皆酔会」では 数々のエピソードとともに思い出を残してくれた藤井さん。

日本各地を巡った巡った数々のCD「皆酔会 Photo Album」や藤井さんの思い出一杯の奈良のアルバム等々が

数多く手元に残っています。年老いて 体調を崩しておられたと聞いていましたが、本当につらい。

みんな 80 を超えて、老いゆく今、数々の思い出 ありがとう。

また、私にとっては立場は違いましたが、溶接冶金の技術者、溶接関係学会・研究会の討論

をした思い出も。

いまは、安らかに御空で仲間と共に憩われますように。 God be with You!!

藤井さんが文集「すくらっぶ」に寄稿された文を読み起こしつつ

「スクラップ」に寄稿された藤井さんのエッセイ・歩かれた道 ゼロックスして添付します。

みんな 80 歳代になって 老化を向き合う身 思いも新たに

2024.5.31. 皆酔会 中西



氏名 藤井 忠 臣

(フジイ タダオミ)



住 所 〒 636-0217 奈良県磯城郡三宅町屏風 17-36

TEL 0745-44-4188 FAX 0745-44-4188

E-Mail tfujii@skyblue.ocn.ne.jp

勤務先 現在の仕事

自 営 : 藤井 QE コンサルタント事務所

ホームページ アドレス: <http://www8.ocn.ne.jp/~fqso/>



家
族
の
状
況

- 妻礼子 (62 才)
 - 長女矢野暁子 (34 才、既婚)
 - 孫桃子 (小学生 4 年)
 - 孫雄太 (小学生 2 年)
 - 次女満里子 (30 才、独身)
- 念願: 孫娘の結婚式を見ること



卒
業
後
の
自
分
史

S43年 4月 日立造船株式会社 技術研究所入社
造船活況の時に入社して溶接の研究は花形で、数年後にはブダベストでの溶接学会に研究発表し、西欧 8 カ国の大学や溶接研究所を歴訪しました。その後石油の需要が高まるとの予測によって重油の脱硫用プラント機器の材料研究に従事し、大学から通じて鉄鋼と水素との関わりに関する研究をライフワークとしてきました。しかし、1次、2次のオイルショックから造船不況となり、殆ど実にならない各種材料開発も手がけ、人生の思惑が外れました。

H 2年 6月 株式会社ニチソウテックに転籍
非破壊検査と設備診断を業務としていましたが、研究所(病理学)と異なり臨床学で、研究所での経験が十二分に発揮できました。しかし、川崎での約 3 年間は無医村での医者ようで、誠にしんどかったです。

H10年10月 同社早期定年退職
H11年 2月 ISO認証審査とコンサルティングのための自営
その間、佛系船級協会ビューローベリタスに一時入社し、ISO認証審査とともに、造船会社の検査とメーカーの工場審査をしました。造船用鋼板を製造している新日鐵大分、川鉄水島、神戸製鋼加古川を審査した時、材料試験におけるガス切断から加工、試験に至る全工程が自動化されていることに驚かされました。

(有資格: ISO品質主任審査員、環境審査員補)

H13年11月 (株)日本環境認証機構と審査員契約締結
ISOの審査は、全国を訪問し、各種企業の内情が判るなど誠に楽しい仕事ですが、近年審査員がだぶつくほど増加してきています。

印象的な出来事

- ◆ 最も印象的なことは、教養時代に親しかった油口君、学部、修士時代に親しかった阪口君を早くに亡くしたこと、さらに学業と生き方を教えられた恩師水野先生が亡くなられたことです。
- ◆ 油口君とは、九州と東北に均一周遊券で旅行して楽しんだり、社会学?の試験前に“名前さえ書けば合格する”という彼の強引な誘いを受けてウオタケで麻雀をし、学部への進級が不合格という通知を受けヒヤットしたことがあります。(その担当先生に直接談判して合格にして買いました。)
- ◆ 阪口君は学生時代と社会人を通じて最も親しい友人で、色々なことを教わり、思い出も尽きないことから、葬儀には弔辞を献じました。特に印象的なことは、卒業間際に然るべきお偉方の娘さんとの縁談があり、彼はその時「見合いをし、結婚するのは自由だが、それならお前と絶交する」と云いい放った。結果として当時付き合っていて彼も良く知っている高校時代の同級の家内と結婚することとなり、家内は彼を恩人と言っていたことです。(現在家内はどう思っているか?)なお、水野先生は先生から最も可愛がられていた阪口君の命日の翌年の同月に亡くなられ、阪口君がすべきであった弔辞を小生が献じることとなりました。その概要はH15年秋の水曜会誌に追悼文として掲載されています。
- ◆ 次には、平成2年から川崎に単身赴任し、心身共にたくたになっている時、東京で同窓会を開いてくれ、大いに楽しめたことです。大島さんが誰かなかなか判らなかつたこと、その夜加藤(隆)君と小生のマンションで大学時代に話し終えていなかった話題の続きを夜通したことなど思い出されます。
- ◆ その後関西に戻って関西での同窓会を発案し、会の後田嶋君宅を訪問し、卒業後初めて田嶋君の元気な顔を見たことで、その後も数回訪問し、彼の厳しい社会観を聞いたことです。

推薦したい観光地

■ 私の住む三宅の里は、奈良盆地のほぼ中央部に位置し、聖徳太子が生まれ育った明日香の里の橋寺から斑鳩の里の法隆寺に至る“太子道”の法隆寺側に位置し、太子の休憩場所となっていたところです。屏風とは、休憩中に風よけのために屏風を敷き詰めたという言い伝えから命名されました。

現在でも、太子が腰掛けたとされる石の椅子がありますが、馬の手綱を結わえたとされる柳の木は、近年植えられました。この地は、今も牧歌的で、豪族の古墳が多く、有名な遺跡としては、唐子遺跡、島の山古墳、能を広めた観阿弥、世阿弥の墓(面塚)があります。

■ 関西で最も美しい夜景が見られる場所は、六甲山ではなく、奈良の若草山と言われています。

小生も天気の良い日には夕暮れ時に若草山に登り、誰もいない状況で頭上のカラスの声を聞き、缶ビールを飲みながら生駒山に沈む夕日を見るのを楽しみにしています。

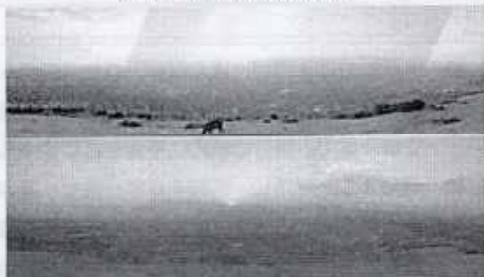
(多くに人は、2月堂から夕日を見に来ています。) 若草山山頂からの夕日



源氏(鎌倉時代)の三宅の里



奈良公園から若草山を仰ぐ



密かな自慢

- 団地の周囲は未だに田圃と畑で、遊休の畑は無料で貸して貰い、20種以上の野菜を作っています。今年もスイカが豊作でした。先般、苗づくりをしていたイチゴと玉葱を植えたよ。
- 将棋は3段(実戦は強くない)で、若いときに詰め将棋を創作していました。作品は初心者向けから超難問まで17作有り、興味のある方は連絡していただければ送付します。
- 今夏、横浜から一人で来た小学4年生の孫娘と大阪科学博物館のプラネタリウムを見にデートした。

水素と共に生きた人生

藤井忠臣

4回生から溶接工学講座（水野研）に配属されてから、日立造船技術研究所に就職し、1990年に子会社に出向転籍するまでの25年間水素と鉄鋼との関わりに関する研究に携わってきました。

就職初年度には、修士論文を札幌での日本溶接学会に発表し、その後の成果をブタベストでの国際溶接学会に発表し（その間、ブタベストで1週間滞在し、溶接研究所の訪問をかね欧州7カ国を回り、楽しい時を過ごしました。）、その後も水素の研究をして、ワシントンDCでの“水素問題に関する国際フォーラム”にも研究発表しました。

水素はこの世で最も小さい原子であるため、格子間隔の広いフェライト系（BCC）鋼の格子中を常温でもすいすい拡散し、種々の興味深い現象が生じます。例えば、福島原発の破壊原因となった水素爆発は、原子炉内で発生した水素が鋼を拡散して格納容器の外に逸出し、建屋の中に溜まって爆発した事例でお判り頂けますでしょう。（このような水素の挙動を関係者の誰かが知っていれば、外壁のコンクリートに風穴を開けていたことでしょう。）

さて、研究を通じて体験した水素問題に関する事例は、紙面が限られていますのでここでは割愛し、下記の水素に関する質問の解答と併せて“スクラップ4”が発刊された後に示すことといたします。

Q1：水素は、主としてどのような産業に利用されているか、1つ以上挙げて下さい。

Q2：水素は、どのようにして製造されているか、1つ以上挙げて下さい。

Q3：水素は、鉄鋼の発達を妨げる敵と考えられていますが、3つ以上事例を挙げて下さい。

Q4：以前、CO₂による地球温暖化が問題になった際、CO₂を全く放出しない水素燃料による自動車が開発されようとしていましたが、それが一般化されなかった理由を2つ以上挙げて下さい。

Q5：水素ポンペの水素は何故漏洩しないのでしょうか。

白井さんは、「ノスタルジックのシネマトーク」によると新商品を直接市場に出す“開発”に携わっておられ、広い知識と知人を含む経験が必要と述べられています。一方、小生は製造技術や材料設計に寄与する“研究”に携わっていて、1つの事柄を深く探求するものでしたが、第2次オイルショックで会社が危機に瀕して研究所が別会社となった際、1回だけ開発に携わったことがあります。

それは、神戸製鋼所の吉賀さんが担当されていたアルミ製HDの開発です。それは、メッキメディア用のもので、日立造船得意の電解複合研磨技術を適用するものでしたが、何分材料に内在する堅い非金属介在物（Al₂O₃）が少ない高価なフォーナインが必要であるというネックがありました。そこで、小生は20mmtの安価な材料の表面を電子ビームでリメルトして介在物を逸出させ、その後2mmtに圧延してブランク材を製造するというアイデアを提案し、開発に取り組みました。しかし、舞鶴で新工場を建設する直前で開発は中断になりましたが。

研究所時代は、言わば“病理学”でしたが、子会社に移ってからは顧客設備の余寿命診断と損傷解析を目的とした“設備診断”を担当しましたが、言わば“臨床学”で、研究で培った技術が応用でき、仕事そのものは結構面白いものでした。余寿命診断の対象は、ダムゲートなどの腐食減肉やボイラチューブなどの高温で使用される機器のFe₃C等の炭化物の変化を定期的に調査し、余寿命を推定するものです。

一方、損傷解析で対象となったのは、応力腐食割れを含む腐食と疲労破壊が圧倒的に多く、延性破壊（貨物船の衝突破壊など）もあり、脆性破壊は阪神淡路大震災で発生した高層マンションの50mmtの鉄骨の破壊1件のみでした。今考えますと、損傷解析は病人の診断と同様に極めて興味深く、いちいち紹介したいのですが、紙面の関係上別途報告することと致します。

